

さわかぜ

sanwa chiku-syakyo

発行責任者: 三和地区社会福祉協議会
会長 福田 隆一
編集責任者: 広報部長 川上 保
事務局: 三和保健福祉センター内
(サンハート内)
電話: 0436-37-7100

2024年度 賛助会員募集 事業 御 礼

本年度、三和地区社会福祉協議会として、7月以降、取組んで参りました賛助会員募集事業の結果につきましてご報告申し上げます

皆さまの温かいご理解とご協力の下、個人会員ご協力者様149口、団体ご協力賛同者様175口、合せて324口（324,000円／(10月15日現在）を集計するに至りました。

ご協力を賜りました皆様に、心より厚く御礼申し上げますと共に、地域に於ける社会福祉活動の更なる充実に向けて役立てて参ります。ご協力、誠にありがとうございました。

〔 賛助会員募集事業集計結果(地区別) 〕

	個人会員 口数	町会等 団体口数	合計
市西地区	54	58	112
養老地区	32	50	82
海上地区	8	61	69
光風台地区	53	6	59
地区合計	147	175	322
包括支援Sひまわり	2		2
総計	149	175	324

※金額換算は口数×1,000 円/1口

図1 一時避難所の有無・名称

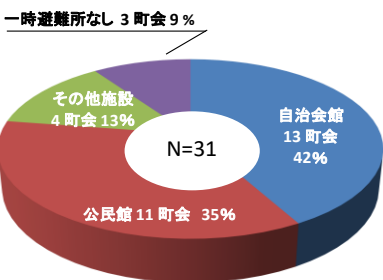


図2-1 空調設備関係

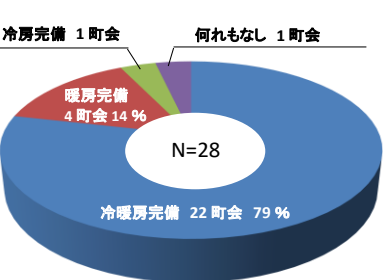
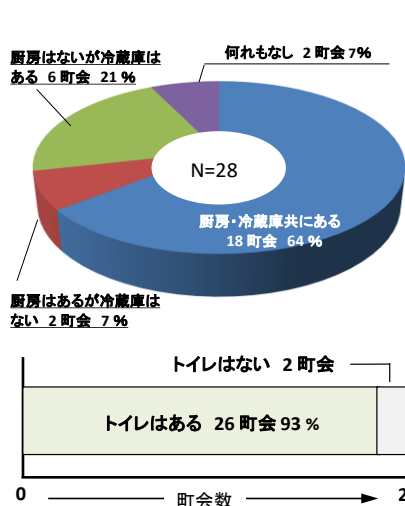


図2-2 厨房・冷蔵庫・トイレ



一時避難所アンケート集計グラフ

図3 災害情報入手について

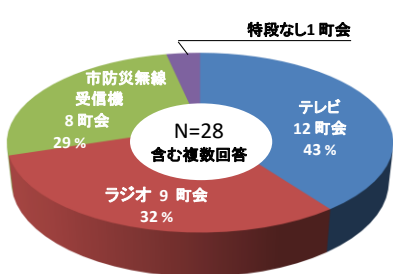


図4 停電発生時の備えについて

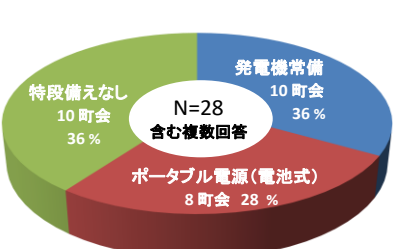


図5 避難指示への対応について

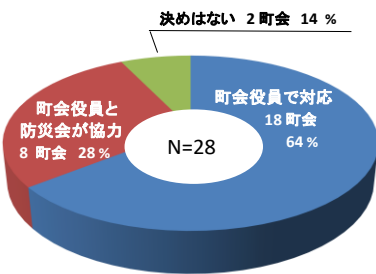


図6 備蓄品の状況

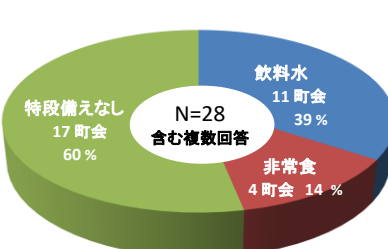


図7 避難訓練等

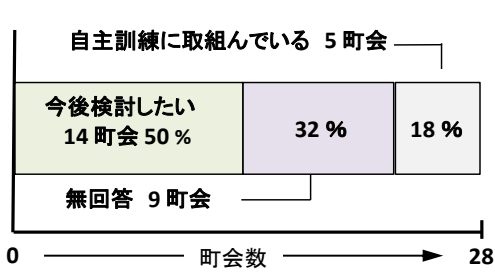
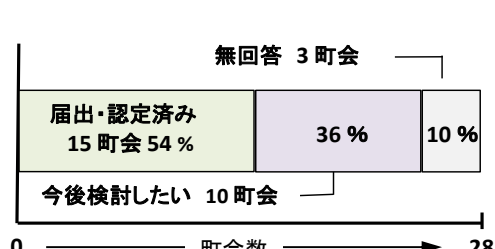


図8 避難所の申請・認定



はじめに

今回のアンケート調査は、三和地区全町会（四十五町会）のご協力を頂き、光風台地区は自治会館を所有するものの、自治会（町会）固有の施設と異なることから、集計デ

ータから除外しています。なお、同地区は現在地区としての防災計画を検討中とのこと。以下、三地区（市西・養老・海上）全町会の回答をベースに、その結果をご報告申し上げます。なお、数値比較の目的に鑑み、個別町会名は省略しています。

ご協力を仰ぎ、身近な一時避難所に対するアンケート調査を実施致しました。その結果をご報告申し上げ、今後の身近な備え・対応等の検討に際し、ご参考にして頂ければ幸いです。



安心・安全部
部長: 布施好幸

地区社協・安心安全部担当の布施です。当部では、台風シーズン到来にあたり、地区内各自治会長（町会長）の

懸念される台風大型化 見直してみませんか地域の安全

九割が身近に一時避難所確保
停電への備えも進展が

町会に一時的に避難できる施設はありますか？の回答では、九割が有るとの回答。（図1参照）

一時的な避難誘導
受入体制も備えの一つに

緊急避難指示への対応（図5）では、町会役員で対応の所と、防災会が組織されている所の回答が、九割が有るとの回答。（図1参照）



市社協
ホームページ



回顧録

第6弾



元陸上自衛隊航空学校

整備・操縦教官 八巻 正時

航空学校入校後
東京立川駐屯地を経て
千葉県木更津の部隊へ

シリーズ ③

ヘリコプターパイロットへ進む経緯は前号で記したが、この関係で私は昭和五十六年四月、北海道から栃木県宇都宮市にある航空学校に入校した。

知らないことだらけの教育に戸惑いつつも必死になって学んだ。取り分け実機訓練は空の上、気を抜くことは許されず、教官の厳しい叱責にも耐え抜き

パイロット資格取得後は 関東の部隊中心に勤務

に歩んだ。ほとんど関東の部隊で勤務した自衛官生活だった。この間、多くの災害派遣や国家行事に携わったが、特に最初の災害派遣となったのが、昭和六十年八月の日航空墜落事故だった。その任務は、墜落現場となった御巣鷹の尾根まで、人員や物資を空輸する役割であったが、現地の異様な光景や臭気、その悲惨さは五感に刻まれている。

また、平成二年には、雲仙普賢岳の噴火によって、噴煙によるエンジントラブルで不時着した僚機の救出でも出動した。地震による災害派遣も本当に多かった。北海道南西沖地震・阪神淡路大震災・新潟中越沖地震・東日本大震災と続き、自然の脅威を感じざるを得ない。

【次号へと続く】

更生保護女性会、名称は厳めしいかもしれませんが、内容は人と人の支え合いを基本にした、相互のたすけあい組織です。地域にお住いの女性の皆さん！是非、私たちと一緒に活動してみませんか？一人でも多くの皆さんのご入会をお待ちしております。私たちのシンボルマークです →



更生保護女性会三和支部
支部長 金杉 三四子



< メンバー同志の絆も大切にしています >

更生保護女性会
三和支部

誰かが自分を気遣ってくれている
そんな心の支え・存在を目指し

健全な育成を図ること、また、矯正施設「市原青年矯正センター」「市原刑務所」での諸行事へも参加協力し、社会復帰への支援活動の一助としている

県社協・福祉教育報告会

光風台小・双葉中・市原高校・地区社協が臨む

八月二十日、千葉県社会福祉センターにおいて、県社協が推進する福祉教育の発表会が開催されました。これは、県社協の指定を受けた小中高ならびに地区社協の福祉教育取り組み内容を報告・発表する場であり、今回は光風台小、双葉中、市原高校の三校と三和地区社協とが、それぞれ連携して取り組んだ教育内容の報告・発表を行いました。



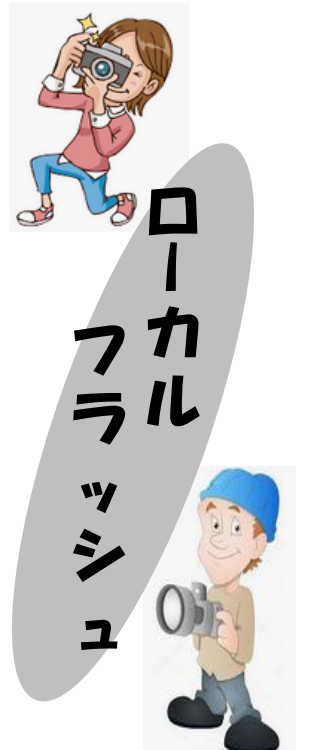
ほか、子供たちの健やかな成長を見守る取組も進めています。こうした活動への理解を深めて頂くために、地域の方々と交えたミニ集会や、会員相互の絆を深める研修も大切にしています。

地域社会は人と人との支え合いで成り立っています。自分を気にかけてくれる人たちがいる、このことはきっと心の支えになるでしょう。そうした存在になることが私たちの願いです。

二十三年ぶりの登拝

二日市場出羽三山講

代表 吉野 孝男



二日市場・出羽三山講では、昨夏(二〇二三年七月八日・十日)二泊三日の日程で、町会に受け継がれる出羽三山参拝を実施しました。もともと二〇年・二五年周期で取組まれており、前回の実施が二〇〇〇年だったことから、「次は東京五輪の年(二〇二〇年)だね」と計画が練られてきました。

新行(初めての登拝者)が十一名、古行十名の陣容。初日は羽黒山神社に参拝し宿坊(養清坊)に宿泊。翌朝、宿坊での朝行を済ませ、月山神社を目指して八合目駐車場より登拝を開始。登山道は残雪に覆われ、悪天候も重なり、下山予定時刻を五時間も超過することとなりましたが、同行者二十一名、互いに励まし合い無事下山することができました。二十三年ぶりの登拝が無事に終え、また、伝統行事をつなぐことが叶い安堵しています。今後先祖代々のこうした行事の継承が出来ればと願っています。



【二日市場三山講 21名の同行者の皆さん】



【残雪の中をひたすら登る】